

持続可能な「ふくし社会」を創る ふくし・マイスター News

ふつうのくらしのしあわせをつくりだす 「ふくし・マイスター」を目指そう!



■ 「ふくし・マイスター」とは?

地域の課題を理解するとともに、生涯を通して地域とかかわりながら暮らす市民としての基礎力、地域課題を見据える「ふくし」の視点を身につけ、ボランティア精神とリーダーシップを発揮して「身をもって」地域課題の解決に取り組むことができる人のことです。

本学が所在する知多半島の多様な地域資源と学生の学びを結びつける「地域志向学習」を1年次から4年次まで積み重ね、「ふくし社会」を担う力を高めた学生には、「ふくし・マイスター」の修了証が授与されます。



■ 「ふくし・マイスター」に求められる4つの力

地域理解・地域
と関わり暮らす
市民力

「ふくし」の
視点で地域課題
を見据える
発見力

ボランティア
精神とリーダー
シップを発揮
率先力

地域課題
解決に自ら参加
し解決する
解決力

■ 「ふくし・マイスター」を修得するメリット

- ☑地域課題の理解が深まる
- ☑主体性が身につく
- ☑視野が広がる
- ☑就職・進路選択に役立つ
- ☑責任感が養われる
- ☑コミュニケーション力が高まる
- ☑学部学科を超えた仲間ができる
- ☑専門性が深まる
- ☑就活時にアピールポイントとなる

■ 「ふくし・マイスター」になるには...

- ①「所属学部+全学教育センター」の「地域志向科目」の中から、卒業時まで10科目20単位以上を修得
- ②1年次から4年次まで、毎年「nfu.jp」上で『リフレクション』を実施

■ 「ふくし・マイスター」をめざす学生たち

社会福祉学部



織田 あさひさん



磯村 亜美さん

子ども発達学部



廣島 颯太郎さん

健康科学部



高岡 遥樹さん



塩原 拓さん

経済学部



角谷 達則さん

国際福祉開発学部



町野 紗希衣さん



山田 智子さん



神山 くるみさん



坂部 里奈さん



北村 萌香さん



渡邊 鈴奈さん

看護学部



榎原 章人さん

スポーツ科学部

※上記学生のインタビュー動画は、ふくし・マイスターHPで視聴できます。→



■COCディ「ふつうの・くらしの・しあわせ」をみつめるイチニチ

全学教育センターが開講する地域志向科目の「知多半島のふくし」(担当:佐藤大介助教)は、「ふくし」の視点で知多半島を見つめ、各学部の専門性を活かしつつ、地域特性や課題を理解し、地域への働きかけや多分野・多職種の連携によって課題の解決策を見出すことを目的としています。

COCディでは、本学が目ざす「ふくし社会」のあり方を地域社会と共有し、その実現に向けて学生と地域住民が学びあう場です。美浜町・半田市・東海市に位置する各キャンパスの特色を生かし、それぞれの地域課題に対応したテーマでシンポジウムを開催しました。

東海キャンパス



2017年12月9日(土)「まちにある空き家をどう活かすのか」をテーマに開催

半田キャンパス



2018年1月25日(木)「半田市の歴史・学びに活かす」をテーマに開催

美浜キャンパス



2018年1月26日(金)「発達障害児支援の取り組みと課題」をテーマに開催

■中部圏COC事業採択校「学生交流会」で報告！

2018年3月1日(水)、中部地区COC採択校の学生による成果発表会が開催され、本学から社会福祉学部人間福祉専修1年の「総合演習(村川ゼミ)」の学生6名(「ふくしAWARD」日本語部門準大賞)が、地域と連携した学習について報告しました。

「若者と高齢者の地域交流の差～高齢者の孤立化と若者の地域離れ～」というテーマで、半田市亀崎地区のサロンで行った活動をもとに、「総合演習」の中で取り組んできた文献学習と調査を踏まえて報告を行いました。プレゼンテーションの途中には、サロンで実践した活動を寸劇を交えて披露しました。講評の中で、審査員から5つある評価軸のうち、「調査性」を高く評価されました。

その後のポスターセッションでは、他大学の学生と関心のある点について議論するなど、他大学との交流を通じて、これまでの学習をふりかえる機会となった。参加した学生は、「普段、他大学の学生と交流することはないので、活動を通じて交流できたことは大変刺激になった。これからも継続的に地域活動に関わっていきたい。」と話していました。



■ふくしAWARD2017 ～37の応募の中から大賞に輝く！～

2018年1月23日(火)に学内プレゼンテーションコンテスト「ふくしAWARD2017」を開催し、最終審査に残った8作品のプレゼンテーションを行いました。全体テーマ「地域に根ざし、世界を目ざす「ふくし」の学びを伝えよう!」のもと、各学生は授業で調査したことや正課内外の地域活動を通して学んだことなど、それぞれ高い関心を寄せる個々のテーマを発表しました。



	賞	作品テーマ	発表代表者
英語部門	大賞	Importance of English "Satu Malaysia"	国際福祉開発学部 3年 浅野光映
	準大賞	VR Diversity and Possibility	国際福祉開発学部 1年 渡邊一樹
	奨励賞	Elderly Care Problem	国際福祉開発学部 1年 伊藤優作
	入選	Help Mark—"I" will make a better society—	国際福祉開発学部 1年 北村有希

	賞	作品テーマ	発表代表者
日本語部門	大賞	地域住民と学生を紡ぐ、防災・減災活動の実践～DoNabeNetiにつぶくの活動を通して～	子ども発達学部 4年 有賀みのり
	準大賞	若者と高齢者の地域交流の差	社会福祉学部 1年 加藤達洋
	奨励賞	認知症啓発のためのカルタづくり	社会福祉学部 2年 天野歩未乃
	入選	もし「南海トラフ巨大地震」が発生したら～私たち学生ができること～	社会福祉学部 1年 門田一希

■ふくしフィールドワーク実践 ～知多半島の市町の地域課題解決に向けて、学部横断的に多職種・多分野連携のあり方を学ぶ～

知多半島の3つの市町(美浜町、半田市、東海市)の地域課題の解決に向けて、学部横断的に多職種・多分野連携のあり方を学ぶ場として2017年度より開講しました。本科目では、全学部生の混成クラスを複数開講し、地域社会での体験学習を重視したサービラーニングの教育方法を取り入れ、「事前学習、フィールドワーク、事後学習」を集中的に展開して学びを深め、「地域を創造していく力」を身につけることを目的としています。美浜町・半田市・東海市に位置する各キャンパスの特色を生かし、それぞれの地域課題に対応したテーマで、1月13日(土)に導入講義を行い、2月下旬にフィールドワークと振り返りを行いました。

美 浜 町

ふくしスポーツを核にした地域の関係づくりー子どもの異年齢間交流を通じてー

植田真帆助教の指導のもと、「ふくしスポーツを核にした地域の関係づくりー異年齢間の交流を通じてー」をテーマに、社会福祉学部、子ども発達学部、経済学部の学生が参加し、「スポーツが苦手でも楽しく、笑顔になれるレクリエーション」のイベントを企画し、2月25日(土)に実施しました。

午前は、美浜キャンパス体育館で、「ポッチャdeエクササイズ」を行い、子どもから高齢者まで約30人の美浜町住民が参加し、ポッチャを通して異年齢交流が実現しました。午後は、南知多ビーチランド&南知多おもちゃ王国にて、「走り方教室・かけっこボール運びグランプリ」を行いました。来園者のうち、約50人を超える親子連れが参加し、学生が考案したエクササイズやかけっこボール運びグランプリを通して、子ども同士や親子同士がふれあう機会となりました。

学生たちは、「実際に子どもや高齢者たちと関わることによって、地域や地域住民の印象が変わり、地域理解を深めることができました。今後は、自分たちの住む地域に目を向け、活動をしていきたい」と意欲を語ってくれました。



半 田 市

一人の暮らしを皆で支える地域包括ケアー多職種連携ー

藤井博之教授の指導のもと、「一人の暮らしを皆で支える地域包括ケア」をテーマに、多職種が連携して課題に取り組むことを目的としながら、対象とする方々の状況に合わせたケアプランの企画・準備・運営を行いました。社会福祉学部、子ども発達学部、看護学部の学生が参加し、半田市社会福祉協議会等の協力をいただきながら、事業所や対象者宅への訪問、福祉用具事業者や専門家にインタビューを行い、実際にケアプランの作成しました。

専門が異なる学生が集まり、実際の支援を考える経験を通して、自他の職種や役割の理解を深めることができ、また情報収集・共有、コミュニケーション能力、発想力、人脈、チームワークの大切さなど、人間力を高めることの大切さを学びました。

学生たちは、「他学部の異なる専門知識もつ学生とディスカッションすることで、違う視点から考える事ができたと思う。こういう機会を増やし、専門知識や技術を深め、実践力をつけていきたい」と意欲を語ってくれました。



東 海 市

いきいき暮らせるまちを育む地域デザイン

吉村輝彦教授の指導のもと、「いきいき暮らせるまちを育む地域デザイン」をテーマに、国際福祉開発学部、経済学部、社会福祉学部の学生が参加し、まちを活用するアイデアを考案しました。

フィールドワークでは、東海市太田川駅周辺の既存施設や空間の利活用の状況を観察し、市民にインタビューをしました。利用者の潜在的なニーズを知り、「居場所のデザイン」をイメージし、「SPACE(空間)をPLACE(場所)とする」プレイスメイキングをしていくことが課題です。グループワークでは、日常性・波及性・継続性の視点に基づいた利活用のアイデアを出し、意見交換を積極的に進めながら、多様な観点から課題を捉えて、まちの活用について意見をまとめました。このアイデアを形にしようと、太田川駅西広場で新たな展開を計画しています。

学生たちは、「どんな情報を「input」するかによって、アイデアの「output」が違ってくる。いいアイデアを創造するためには、様々な視点や価値観を受け入れることが大切であり、今後の活動に活かしたい」と意欲を語ってくれました。



日本福祉大学は、「地域に根ざし、世界をみざす『ふくしの総合大学』」として、地域と連携をすることで、教育・研究・社会貢献の取り組みを展開しています。地域の拠点として、3つの「Cラボ」を設置して、地域連携を専門とするコーディネータが学生や教職員の様々な活動を支援しています。

Cラボ東海



村松愛子コーディネータ
場所：ソラト太田川 3階
☎：080-8979-7394

【自分の「得意」や「好き」から地域貢献へ】

Cラボ東海では、地域と学生の垣根をこえた居場所「東海ハングアウト」での音楽企画やアニマルセラピーなど実施してきました。これらの企画のキーワードは「楽しい」「好き」といった感情ですが、深い学びの多くが、感情から派生してると考えています。五感をフル活用して、多様化した「オンリーワン」を目指し、皆さんと共に進化していけたら嬉しいです。常に、「ワクワク感」を醸成するCラボ東海でありたいと思っています。



音楽を通じた多世代交流を学生が企画



Cラボ東海で3Dプリンタを活用するワークショップを開催

【学んだことを半田市で活かしてみませんか】

学んだことを地域で活かす。そんな実践的な活動が増えてきました。学生時代のちょっとしたアクションの繰り返しが、自らの学びを深め、地域をよりよくしていきます。一見、難しそうに聞こえるかもしれませんが、そんな人はまず、まわりで起こっていることに興味をもち、地域の人から話を聞いてみる。そんなことから始めたらどうでしょうか。Cラボ半田はそんなあなたのスタートアップのお手伝いができる場所です。



池脇啓太コーディネータ
場所：クラシティ 3階
☎：080-2629-4150

Cラボ美浜



廣澤節子アドバイザー
場所：美浜キャンパス
10号館2階
☎：0569-87-2430

【一歩でて、地域に繋がってみませんか】

自然に囲まれた美浜キャンパスがある美浜町は、体いっぱい四季を感じられる素敵な場所です。もし、四季に合わせて子ども達といっしょに遊ぶとしたら、何を考えますか？地域の絆が強いゆえに、結束力が強く新しい事を受け入れるのに時間がかかる地域ですが、一度繋がってしまえば自分の子どもや孫の様に見守ってくれ、みなさんの活動に協力してくれる仲間です。美浜の住民のひとりとして、地域と学生の皆さんをつなぐサポートをさせていただきますので、一緒にキャンパスから一歩出てみませんか。



地域の方に教えてもらった恵方巻を子どもと一緒にばくり

ふくし・マイスター

【第3回MIHAMA F-es～地域の魅力発掘市～】開催！



2017年10月15日（日）美浜町商工会青年部主催で「第3回MIHAMA F-es」が開催され、地域住民1,500人が参加しました。美浜キャンパス学生有志が中心となり、サブアリーナの企画やサークルなどに声掛けをし、学生ボランティア50名以上が参加があり、地域に根ざした活動が展開されました。

【第3回東海市地域大円卓会議】開催！



2017年11月21日（火）東海市芸術劇場多目的ホールにて、第3回東海市地域大円卓会議～東海市の中心で夢を叫ぶPart II～が開催されました。東海市の行政、市民団体や企業の方、東海キャンパスの経済学部、国際福祉開発学部、看護学部の学生も参加し、それぞれの夢を掲げ意見交換を行いました。

